京都御苑ニュース

閑院宮邸跡

閑院宮邸跡 開館特集号

閑院宮邸跡 保存活用事業について

吉井　雅彦

京都御苑の西南角にある間之町口から苑内に入ると、すぐ左手に立派な門構えと築地塀で囲まれた一角があります。これが江戸時代から続いた閑院宮家の屋敷跡です。ご承知のとおり、京都御苑は江戸時代には二百もの宮家や公家の邸宅が立ち並んだ公家町でした。明治になって都が東京に移った後、これらの邸宅が取り除かれて公園になりましたが、唯一、この閑院宮邸跡は創建以来の場所にあって、その建物及び庭園空間を今に伝える貴重な公家屋敷跡となっています。

閑院宮家は、伏見宮、桂宮、有栖川宮家と並ぶ江戸時代の四親王家の一つで、東山天皇の皇子直仁親王を始祖として宝永七年（一七一〇年）創立されました。この場所が閑院宮家の邸宅として使用されたのは同宮家が東京に移った明治十年までで、その後は華族会館や裁判所に使用され、明治十六年に旧宮内省京都支庁が設置されています。現在の建物はその時に新築されたとの記録がありますが、当時存在していた閑院宮邸建物や材料が利用されたことが推測されます。

この閑院宮邸跡も一時、京都迎賓館が饗宴場跡に建設されることに伴う代替グラウンドを整備することが計画されていました。しかしその後の学術調査委員会（座長：中村昌生　京都工芸繊維大学名誉教授）で、歴史的価値が高く一体として保存すべきとの評価がなされ、環境省ではこれを保存活用することを決定しています。そして長年の使用で傷みがひどくなっていたことから、平成十五年度から三カ年、総工事費七億円をかけて全面的な改修と周辺整備を行い、平成十八年三月に竣工しました。

今回の改修整備に当たっては、公家屋敷の雰囲気を今に伝える貴重な建物の修復と補強を、また庭園についても閑院宮邸創建当初の意匠を踏まえた整備を行いました。さらに、公家屋敷の雰囲気を壊さない範囲で機能の充実を図っており、特に収納展示室については京都御苑に関する資料の展示により、御苑の歴史や自然について利用者への情報提供を行えるようにしています。

この閑院宮邸跡のある京都御苑南西部には、九条家邸宅に付随する庭園の遺構である九条池や二階建茶室の拾翠亭、さらには宗像神社や厳島神社などがあり、閑院宮邸跡と合わせ京都御苑の歴史に触れるには格好の場所となっています。是非この機会に、閑院宮邸跡とその周辺をゆっくり探勝されてみてはいかがでしょうか。

（環境省
京都御苑管理事務所長）

自然保護憲章

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。
自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしよう。
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

自然はわれらを　われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881　京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
財団法人　国民公園協会
京都御苑　前田　稔

編集
㈱白川書院

監修
環境省京都御苑管理事務所

本紙は100%再生紙を使用しています。

閑院宮邸跡建物改修工事

堂岡　實

工事施工

閑院宮邸改修工事について『御苑ニュース八三号』で一部お伝えしましたが、続報です。

新しい基礎の上に据えた建物は、床組み、小屋組み、及び骨組みとなる軸部材が平成十六年十一月頃に組み固められました。続いて屋根の瓦葺が、既存瓦のうち割れ欠けの無い採用可能な瓦を出来るだけ使用しながら、新規補足瓦と共に元通りに葺き替えられました。壁の塗替は、下地に竹小舞を掻いて骨組みとし、荒壁塗・中塗と順次塗り進め白漆喰塗に仕上げていきました。その他、建具、造作、内装工事、及び電気、機械空調設備工事と順調に作業を進め、予定通り平成十七年十二月には御殿の完成を見ることが出来ました。

完成した建物は、新たに要所に筋違、火打梁、火打土台、及び力貫等、可能な限りの構造補強を行い、伝統工法による木工技術によって格式ある外観をもつ御殿造りの建築が蘇りました。

南棟鬼瓦

南棟鬼瓦上面の刻印「安政二乙卯歳」

建物案内

東門に対面するように、正面に入母屋造りの格式ある車寄せがあります。三段の階段を昇ると右側に受付が、左側にスロープからの入口がある玄関となっています。室内の床は板張り、壁面は腰を竪板張とし上部を白漆喰で塗り、鴨居上には内法長押を廻し、天井は棹縁天井となっております。玄関ホールの突当り正面には、窓越しに四周を建物で取り囲まれた中庭があります。全面を芝張りとし、僅かな植栽と景石を据えた空間です。廊下を左に進むと南棟の収納展示室です。又右の建物は管理事務室で、前面の建物は開放的な外観をもつ西棟でレクチャーホールになっています。

発見

南棟は閑院宮邸の中にあって、特に歴史を感じさせる柱の風蝕や過去の痕跡、埋木等が随所に見受けられます。室内には、環境省に収納されていたものや迎賓館建設現場から発掘された出土品の他、御苑の歴史等色々な資料が収納展示されております。

解体工事を通じてこの建物からは、創建に関わる棟札や工事銘板等の記録は残念ながら発見されませんでした。しかし、柱、梁、桁に書かれた大工さんの符牒や番付について調べてみますと、南棟の解体木材から一つの部材に二～三種類の番付が識別されました。これは建物の位置の変動や増築、改築、模様替え等による構造部材の組替えがあった痕跡なのかどうか、今後の調査に期待するところです。

屋根は桟瓦葺の入母屋造りで、反り屋根や起り屋根等に葺かれておりますが、過去数回の葺替や修繕のため、瓦の大きさ模様等が多種多様に混ざり合っていました。古い瓦の中には六種類の瓦製造業者の刻印があることが判明しました。その他、南棟の屋根棟積端にある瓦には、安政二年（一八五五）の年記を刻印した鬼瓦や獅子口瓦が残されており旧位置に復旧しました。又北棟の屋根鬼瓦の一つには寛政三年（一七九一）五月の年記と瓦師の名前を篦書（ヘラガキ）した鬼瓦が棟を飾っていましたが、欠損状態が甚だしく不採用となりました。このように天明大火後の寛政年記の瓦、嘉永大火後の安政年記の瓦が、棟瓦として据えられていたことは、閑院宮邸の歴史を知るうえで大変価値ある資料であります。

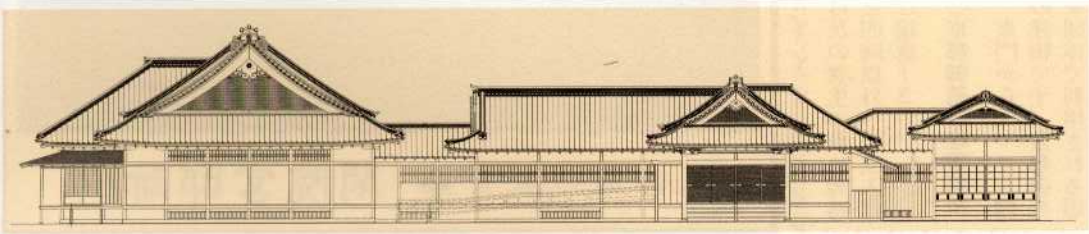
北棟鬼瓦

北棟鬼瓦側面篦書（ヘラガキ）「寛政三年亥五月小　瓦師　半右衛門　口」

★★★

旧閑院宮邸敷地は、現在地より北及び東に広がったL字型をしておりましたが、大内整備事業により敷地は縮小され、又建物は規模や用途も変ってきておりますが、京都御苑の中に在って歴史の変動を経てきた往時の面影を残す貴重な建物であります。

（財団法人
京都伝統建築技術協会
再生技術研究所長）



閑院宮邸跡庭園 修復整備について

吉村 龍二

修復整備が行われる前の旧閑院宮庭園は、園池とその中に配置された中島以外、庭園を思わせるものはほとんど無かったといえます。一般公開されている旧九条家庭園（拾翠亭）とは異なり、庭園の前に建てられた環境省旧京都御苑管理事務所によって遮られ、限られた研究者や関係者しかその存在が知られていませんでした。

発掘終了後の園池

平成十三年、有識者による委員会（庭園部門：京都造形芸術大学尼崎博正教授）によって、現存する木造建築物を解体修理し、池護岸をできるだけ造営当初の姿に戻し、公家風庭園の雰囲気をかもしだした公園的活用整備を行う閑院宮邸跡保存活用計画が策定されました。

修復整備を行うには、まず閑院宮庭園がどのような庭園であったかということの把握をする必要があります。これまでに判っていたことは、故・森蘊博士が「江戸時代の寝殿造系庭園」としていたこと、正徳六年により東山天皇の御所が親王に下賜され移築され、幾度か火災に遭いそのつど再建されたこと。明治の大内保存事業（八七七）で南側に土塁が設置され、大正大礼（九二五）において、東洞院通の位置で敷地が分断され池の東側が狭まり、東側の園池がなくなったことぐらいでした。

州浜の施行状況

作庭されて長い年月を経た庭園は、その時代の好みによって作り変えられることがあり、庭園を維持する為の修理も行われることから現存するものが作庭当初の形状ではないことがよくあります。現在の修復整備では、庭園の変遷や構造の把握のために事前に発掘調査を行い、庭園がどのような状態であったかを確かめます。この閑院宮庭園においても、平成十六年に京都市埋蔵文化財研究所（以下、埋文研）が事前発掘調査を行いました。その調査において、南側切石護岸の下から古い鴨川の河原石を粘土に埋め込んだ州浜を検出しました。修復整備計画では、その検出した州浜を埋め戻して保存し、その上に州浜を復元することにしました。西側の緑地部分は、将来、発掘調査を行った時点で修復整備を行うこととし、今回の整備においては京都御苑の広がりのある緑地空間として、既存の樹木を極力残し、明るい林とすることにしました。

昨年、実際の修復工事が始まり、埋文研の立会いを得ながら全体の確認調査が行われると、北側まで続くと思われた州浜が、中島の二メートルほど北側にそれに対応する州浜があり、当初は現在より小さく、水位も低いものであったことが判明しました。現在の北岸は明治に入り、京都御苑全体の調整池としての役割を果たすための治水目的に広げられたのだろうということも判りました。現在も調整池としての機能を有していることもあり、園池の大きさについては、修復前の大きさを踏襲することにしました。北岸では南岸とは異なり、すべての石を粘土に埋め込まず敷き並べた州浜が見つかりました。今回の修復整備においてもその内容がわかるように、南岸は石を埋め込んだ州浜、北岸は敷き並べた州浜として二種類の州浜を復元しています。それぞれの州浜は、調査によって明らかになった当時の技法を再現し、粘土と石灰、にがりのさまざまな混合サンプルを作成し、適切な配合を見つけ作成しています。表面だけではなく、その構造にもこだわった修復整備を行っています。

（京都造形芸術大学日本庭園研究センター客員研究員）

御苑の風景 ㉕「閑院宮邸跡」

催事案内

■平成18年京都御苑自然教室

一般市民を対象とした自然教室を本年度は、下記の通り予定しています。都市の中では貴重な緑をもつ御苑で夏の自然を観察しましょう。

夏の自然教室
“夏の御苑にふれよう”

7月16日（日）　9：30～12：00

主　催　環境省京都御苑管理事務所
　　㈶国民公園協会京都御苑
指　導　京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。
内　容　夏の御苑にはどんな草花やキノコがあり、どんな虫や鳥たちが生活しているか観察します。
集合場所　京都御苑富小路休憩所前
　　（上京区京都御苑富小路口）
受付方法　当日、集合場所に9：30頃までにお集まり下さい。
参加費　無料
問い合わせ　京都御苑管理事務所　TEL 075(211)6348
　　㈶国民公園協会京都御苑　TEL 075(211)6364
その他　筆記用具をご持参下さい。手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具があればご持参下さい。

*以降自然教室予定　秋“秋の御苑にふれよう”
11月26日（日）　9：30～12：00
集合場所　石薬師御門前
平成19年　自然教室予定　冬“冬の御苑にふれよう”
1月21日（日）　9：30～12：00
集合場所　中立売北休憩所前

会員募集

財団法人国民公園協会　京都御苑

年会費
- ●普通会員　1,000円以上
- ●賛助会員（会社・団体）　10,000円以上

会員の特典
1. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。
（ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。）
2. 本会発行物をそのつど送付します。

■申し込み、問い合わせ先
㈶国民公園協会　京都御苑
住所　〒602-0881　京都市上京区京都御苑内
TEL　075(211)6364

閑院宮邸跡利用案内

閑院宮邸跡敷地内には、旧閑院宮邸建物の他、庭園、環境省京都御苑管理事務所等があり、午前八時三十分から午後五時まで自由に出入りできます。

なお、車でお越しの場合、徒歩約十分の中立売西駐車場をご利用下さい。身体障害者の方や環境省管理事務所や国民公園協会への短時間の御用の場合は北門から出入りし、管理事務所西側に駐車して下さい。

◇旧閑院宮邸建物

東門から入って正面の建物です。正面玄関から入って左側に収納展示室があります。室内には、京都御苑の成り立ちや、発掘調査で出てきた公家町の遺物などの歴史に関すること、京都御苑のいきものや自然にふれあう場所の紹介等自然に関する情報、グラフィックパネルや実物展示でわかりやすく解説しています。また、ライブラリーには歴史や自然に関する書籍や図鑑を備えています（貸し出しは行っておりません）。

休館日は、毎週月曜日と年末年始（十二月二十九日から一月三日まで）です。参観時間は、午前九時から午後四時三十分まで（受付は午後四時まで）で、入場無料です。入場されるとき、受付簿に住所、氏名、人数をご記入下さい。

なお、正面玄関から入ってすぐ右側の窓口では、毎日（年末年始を除く）午前八時三十分から午後四時三十分に、グランド、テニスコート、ゲートボール等苑内の運動施設や拾翠亭利用の申し込みを受け付けています。

◇庭　園

東門から入って左側には、作庭当時の意匠を復元した池を中心にした庭園があります。年末年始を除く毎日、午前九時から午後四時三十分まで自由に散策できますが、しばらくは芝の養生のため苑路と四阿以外への立入はご遠慮下さい。

◇京都御苑管理事務所

東門から入って右側の建物です。京都御苑を団体で利用される場合の利用届けや苑内での落とし物等の届けの受付、利用案内等を平日の午前八時三十分から午後五時まで行っています。

（環境省京都御苑管理事務所）

①